

# 友好都市をつなぐアンテナショップ

## 特集1 「麦わら帽子」に行こう!

武蔵野市と友好都市の名産品を扱う「麦わら帽子」が今年9月にリニューアルオープン。お店の魅力と、市と友好都市の絆の大切さを特集します。



### アンテナショップ「麦わら帽子」

☎0422-29-0331 吉祥寺本町2-33-1 (中道通り商店街)  
営業時間：10：30～18：30 / 定休日：水曜日・年始

他にはない自慢の品がそろそろセレクトショップ

近年、生産者の顔が見える安全な食品を買いたいというニーズが高まっていますが、市には17年前からこうした食品にこだわり、九つの友好都市と武蔵野市の厳選品を扱うお店があるのをご存じでしょうか。

吉祥寺中道通り商店街の人気店の一つであるアンテナショップ「麦わら帽子」は、各地域の採れたて野菜、お米、乾物、酒などを扱うセレクトショップです。

日々の品ぞろえが充実しているのはもちろん、ほぼ毎週、各友好都市の独自のイベントが実施され、季節とともに商品が移り変わっていくのが特徴。訪れるたびに新たな発見がある楽しいお店です。

今回は店内改装でさらに買い物がいやしくなったお店の魅力と、友好都市の大切さを改めて紹介します。これまで、お店を見たことはあるけれど入ったことはなかったという方も、この機会にぜひ一度「麦わら帽子」にお越しください。

「ベビーカーや車椅子でも安心」

# 新しい「麦わら帽子」の魅力

買い物のしやすいお店へ

9月の改装でお店はどう変化したのでしょうか。麦わら帽子の店長・佐藤健太さんに尋ねました。

「まずは通路を広げて、気軽に入りやすいお店にしました」と佐藤店長。ベビーカーや車椅子でも買い物ができるような通路を広げ、出入り口を増設。見通しのよいお店になったことで、観光客の立ち

寄りも増え、客数は1日平均で約30人も増加したそうです。

また、活用していなかった空間を徹底して見直し、商品の陳列を改善。すっきりした雰囲気。陳列している商品数はむしろ増えたといいます。「改装で店頭のイベントなども実施しやすくなりました。今後はこれまで以上に、生産者との対話や商品の変化を楽しめるお店にしていきたい。ぜひご来店ください」

「麦わら帽子」は産地直送の商品を、ただ並べて売っているのではなく、お客さん、生産者と近い距離で話し合っで選んでいます。それを17年間続けていますから、扱っている品は本当に厳選されたものばかり。品質には自信がありますので、一度、お試しください。



営業統括マネージャー（店長）  
佐藤健太さん

## 出入りがスムーズに



改装後は、通路が二つになり、出入りがぐっとスムーズに。



通路が一つだった改装前は、入り口付近で誰かが立ち止まると、出入りが詰まっていました。

## 商品数が増加



お土産に武蔵野市の名産品を買いだめしたい場合などに、とても便利。

武蔵野市を代表するお土産品「むさしのプレミアム」のコーナーが新設されるなど、店内で扱う商品が増え、より充実しました。

## すっきりした陳列



選りすぐりの商品がすっきりと整理され、探しやすくなりました。

商品陳列だけでなく、友好都市の情報やポスターも、いっそう美しく見えるよう工夫しました。



# 「友好都市ならではの強い絆」

# つくる人と食べる人をつなぐ

## 人と人の距離が近いお店

利用者が珍しい商品を見て驚くと、店員が声をかけて説明する——「麦わら帽子」ではこうした光景が日常的で、売り場のコミュニケーションがとて活発です。

また、各友好都市の生産者や仕入れの担当者が店頭販売を行うイベントが、ほぼ毎週実施されるのも大きな特徴。生産者はここで生産地とは

異なる東京の食文化や傾向をつかみ、より良い商品開発に生かしています。

近年、地方の直送品を扱うお店は増えていますが、これほど頻繁に生産者と利用者が対話し、商品を生み出しているお店は大変珍しいといえるでしょう。そこには、単なる売り場と仕入れ先の関係ではなく、互いに友好都市としての厚い信頼関係があります。

## 商品を熟知した案内

今日は遠野のりんご「名月」がお勧めですが、季刊誌が出る12～1月頃はきっとおいしい新豆が出ています。旬の食材やおすすめ品は日々変わりますので、気軽に聞いてください。



取材日に「遠野フェア」として店頭販売に立っていたのは、遠野市の仕入れを担当する石井良子さん。「麦わら帽子」以前からアンテナショップで働き、遠野市担当を22年続けている大ベテランです。現地の商品や生産者のことを誰よりも熟知し、細かい疑問にも丁寧に答えてくれます。



## 新商品の試験販売も

農業ベンチャーとして全国的に有名な遠野市の「多田自然農場」の商品も多数並びます。新商品を「麦わら帽子」で試験販売することも。



## 九つの友好都市

武蔵野市の国内の友好都市は9都市。「麦わら帽子」は、商品の販売・情報提供だけではなく、子どもたちの販売体験や学生による企画品の試験販売など、教育面でも友好都市と協力しています。



## 千葉県南房総市

年間を通して温暖な気候の南房総市からは、季節ごとの旬な特産品をたくさんお持ちしています。市場では流通しにくい、地元ならではの特産品も自慢です。



道の駅  
「富楽里とみやま」  
駅長・杉本和彦さん

安曇野市  
産直センター  
藤原裕子さん

## 長野県安曇野市

「新鮮、安心、おいしいは産直センターから」をモットーに、生産者の思いをお伝えしています。毎月第3土曜日は麦わら帽子でイベントをしています。お気軽にお声をかけてください。

「毎日の各シーンにぴったり」

くらしを豊かにしてくれる  
選りすぐりの品々

都市部の農地の魅力

お店には、野菜だけでなく、お酒や、贈答品にもぴったりの商品が多数。友好都市のさまざまな魅力を楽しむことができます。(商品はいつでも平成30年11月のもです)

市内の農家から朝入荷した採れたてキャベツ。



その大きさでお客さんを驚かせた市内農家のブロッコリー。



葉っぱもおいしい市内農家の葉付き大根。



佐藤店長がお勧めする岩手県遠野市の切り干し大根と乾燥大根。

●毎日のくらしに

毎日の食卓にあがる野菜やみそ、漬物、付け合わせなどにも17年のふるいに残った商品が光ります。市内農家から朝入荷する採れたて野菜も人気です。



新潟県長岡市の「昔づくり」と岩手県遠野市の「大徳屋味噌」



ご飯のお供に人気。鳥取県岩美町の「ししゃもちくらげ」。

鳥取県岩美町の「砂丘らっきよの甘酢漬け」はおつまみにも。



富山県南砺市の「白エビかき揚げ丼」はすぐ食べられておいしいと評判。



デザートに人気なのは岩手県遠野市の多田自然農場の「ナチュラルプリン」。低糖度タイプもあります。



市の「子育て応援券」を使おうと利用したのがきっかけでした。本当においしいものばかりで、よそで買い物するのがもったいないと思うくらい。遠回りしても食材はここで買います。(小見さん)

10年通う常連さんのイチオシ



お店に10年通っている小見さんのおすすめ品は、山形県酒田市の「平田牧場の豚肉」。開放豚舎で健康的に育った豚肉の味は格別です。





左から「カヴェルネソービニヨン」「パークス赤・バベアスカ・ネアグラ」「ピノアール」。ブラショフ市の友好ワイン「パークス」はむさしのプレミアムにも認定されました。

## ●こだわりのお酒を

各地域の地酒は、日本酒好きの佐藤店長によるこだわりのラインアップ。また、友好都市の一つであるブラショフ市があるルーマニアのワインも、手に入るお店が少ない貴重な一品です。



各友好都市のおすすすめの日本酒を集めた試飲販売会など、イベントも行っています。

## ●その場で精米

各地域のお米を、店内で玄米から精米することができます。主食となるお米の味が良くなると、食事全体がぐっと高品質になると評判です。



### 地粉うどん

かつては市内の冠婚葬祭で振る舞われたという、地元産の小麦を使ったうどん。コシの強さと小麦のうま味が自慢で、食文化の伝承にも意義あるお土産品です。

## ●とっさのお土産にも

すぐにお土産を用意したいときにも便利です。市外の人には「むさしのプレミアム」、市内の人には各地域の個性的なスイーツや茶葉子がぴったりです。



### コーヒー大福

吉祥寺の人気店「紅梅堂」のコーヒー大福は、コーヒー入りの餅皮と白あんに生クリームを組み合わせた三層仕立て。コーヒーにも紅茶にも合う、お土産品です。

## ●季節の変化を感じて

季節の変化、気象の影響などで店頭での生鮮食品は日々変わっていきます。買い物を通じて、自然の変わり目やリズムを感じるのも楽しいでしょう。

広島県大崎上島町の有機レモン。濃くて、爽やかな味わいです。



夏の終わりまで食卓に彩りを加えてくれた山形県酒田市のフルーツピーマン。

### 生チョコサンド

緑町の洋菓子店「パティスリーティアレ」の生チョコサンドは、ふわふわのスポンジでとろける生チョコを挟んだぜひいたく味わいで人気のチョコケーキです。



### 金箔入り吉祥寺辣油

四川料理店「吉祥寺MATSUHI RO」が、市内産唐辛子と20種以上の香辛料・調味料をブレンドした特製のラー油。家庭に高級店の味を演出してくれます。

## ●花で毎日を美しく

市内と、千葉県の南房総市から毎週木曜日に仕入れる花は、生命力があり長持ちすると評判です。リピーターの購入者が多く、入荷するとすぐ売り切れてしまいます。



## ● 交流から生まれる さまざまなメリット

友好都市の存在によって、市内だけでは実現できないさまざまな体験や教育などの機会を得ることができます。



**セカンドスクール**  
林業体験の様子。市立小中学校の児童・生徒たちが楽しみにしている自然体験も友好都市の協力のおかげです。

### 商人(あきんど)体験

大崎上島町の子どもたちが市内を訪れて店頭での販売業を体験学習。地方からの訪問もあります。



### 市民宿泊助成

制度を利用すると、遠野市、長岡市、南砺市、安曇野市の指定施設で宿泊料が1人1泊3000円もお得に。

## ● 海外との青少年相互派遣での 異文化交流もさまざまなメリット

国内だけでなく海外と友好関係を築くことにも力を入れています。



平成29年度はアメリカ・ラボック市(写真左)を、平成30年度には韓国(写真上)も訪れました。

# [もっと知ろう! 友好都市のこと] まちを元気にしてくれている 友好都市とのつながり

友好都市の厳選した商品を扱う「麦わら帽子」ですが、そもそも友好都市とは何なのでしょう。他の自治体と友好関係を結ぶことがなぜ大切なのでしょう。市民部交流事業担当部長の大杉由加利さんに聞きました。

### 互いに助け合える関係を

普段、見落としてしまいがちですが、実は都市に住む私たちの生活は、地方の生産に依存しています。

水や食糧はもちろん、エネルギー、生活用品など、全国の生産物を基盤に、文化・芸術・情報などを扱う都市型の暮らしが成立するのです。

一方で、美しい自然や地場産品などの価値を守っている

生産地の農山漁村では、都市への人口流出と過疎化に悩まされています。

市では、都会と地方が持続的に共存するため、他の自治体と友好関係を結び、密接な交流を実施しています。

友好関係を結びきっかけは、消防団の交流や、児童の交流からなどさまざまです。しかし、互いにないものを補い合い、助け合う点は変わりません。

市にとつては、地方のおいしい特産品の入手や、自然や異文化体験学習の機会に。地方にとつては、特産品販売などによる経済の活性化、子どもたちの体験学習の機会に。近年は、災害時の相互支援についても確認し合い、防災面でもその意義が見直されています。

### 世界とのつながりも

また、平和や環境など、地球規模の課題解決には、国際



## ●武蔵野市の友好都市

現在、国内に九つ、海外に六つの友好都市があります。なお、以前は姉妹都市との呼び方が普通でしたが、姉と妹の上下関係を感じさせるとの意見から、近年は友好都市の呼称が一般的になりました。

### 国内友好都市

昭和47年	富山県南砺市（旧利賀村、平成16年合併）
昭和62年	長野県安曇野市（旧豊科村、平成17年合併）
昭和57年	長野県川上村
昭和62年	千葉県南房総市（旧白浜村、平成18年合併）
昭和63年	岩手県遠野市
平成元年	新潟県長岡市（旧小国町、平成17年合併）
平成 2年	広島県大崎上島町（旧大崎町、平成15年合併）
平成 4年	山形県酒田市
平成15年	鳥取県岩美町

### 国際友好都市

昭和61年	アメリカ合衆国 テキサス州ラボック市
昭和63年	中華人民共和国 北京市*
平成 3年	ロシア連邦 ハバロフスク市
平成 4年	ルーマニア ブラショフ市
平成 9年	大韓民国 忠清北道忠州市
平成 9年	大韓民国 ソウル特別市江東区

※北京市人民対外友好協会を通じての青少年交流

## 武蔵野市はルーマニアのホストタウンです

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、ルーマニアのホストタウンとして、武蔵野市はルーマニアの選手たちも応援しています。



国内や海外の地域との友好

### 私たちの地域の活力に

私たちが暮らす地域は、長い歴史と文化を誇る。日ごろから異文化に接して理解を深めることは、青少年の成長においても意義のあることです。市では、現在までに海外6都市と友好関係を結び、交流事業を進めています。

関係は、教育や生活の質の向上、防災力の向上につながります。さらには、自分たちが住むまちを見つめ直す機会となつて、新しい資源やネットワークを取り入れ、地域を豊かにする力になります。この機会にぜひ、皆さんも市の友好都市について、調べたり、体験してみたりしてください。

### 物産品の販売

毎年恒例の桜まつりや青空市では、良質な物産品を購入できる友好都市の販売店が大にぎわいになります。



### 市民交流ツアー

ツアーでは普通の旅行では得られない貴重な経験も。安曇野市の特産品であるガラス作りの様子です。



### むさしのジャンボリー

小学生たちが川上村の大自然の中で共同生活し、キャンプファイアーなど野外活動を楽しみます。



### ホストファミリー

市と海外とで相互のホームステイを実施し、文化交流を促進しています。成蹊大学の学生らとホームステイ中のブラショフ市からの学生が、鎌倉を訪れたときの様子です。



### 海外派遣事業

毎年、海外の友好都市を市民団が訪れ、ホームステイや体験事業などを実施します。平成30年度は合唱や日本文化を紹介するためにルーマニアを訪れ、現地で熱い歓迎を受けました。